



第1196号
2011年2月20日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英 久子

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

皆さん本当にありがとうございました。11日の日は雪交じりの悪天候(参列いただいた皆様には足許も悪く、しかし一方では乾燥した大地には恵みの雨であったかも知れません)の中にもかかわらず、たくさんの方々にお集まり頂き、公会の主教に按手され、着座させていただきました。首座主教が小生を「主教に按手することに同意するか、主教として支持するか」という諮問に、皆さんに同意と支持の応答をして頂きました。多くの方々を支えられ、海外並びに退職の主教方も含めて、25人の主教に手を置かれたことはこの上もない幸いです。被選された後、祈り黙想する中、正直もう逃げ出してしまいたい思いにもなりました。先輩主教が、「今のあなたを神が選ばれ、多くの方々に支えられているのだから常に前を向きなさい。完全であるから神

《み手のなかで》 喜びの道を伝えて

主教 大畑 喜道

が選んだのではなく、破れの多い者だからこそ、謙虚に慎み、聖霊の働きを常に求めていきなさい」と励ましてくださりました。多くの方々から健康でいてくださいと言われました。心も体も健康であり続けたいと思います。この世が健康になるためには神の恵みに出会い、贖いの恵みを頂く共同体の喜びが、ますますこの世に必要とされています。混沌とした時代ですが、神は創造の始めから大きなみ力をもってこの世に秩序を与えてくださいました。喜びに満ちて道を進んでいくことができるようになってくださいました。現実の社会は神の絶対的な力を嘲笑うかのような事が起こっています。無気力と不信が渦巻く中で、人間的な思い、力を頼っていたら押しつぶされてしまいます。「主に望みを置く人は新たな力を得る(イザヤ40・31)」。神に希望をおき、神の思いの表現のためにみ言葉を聞き、みな一つになってこの世に喜びを伝えていきたいと思えます。

(東京教区主教)

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

◇2月の代禱・信施奉献
▽「信教の自由」を抑圧されている人々のため(2月11日に近い主日) ▽ハンセン病問題啓発の日(顕現後第6主日2・13) ▽聖公会生野センターのため(2・27)(3月1日に近い主日) ▽深川・キッドスクール(幼稚園のため) ▽ぶどうのいえのため ▽中部教区可児ミッションの働きのため
▽世界祈禱日2011「あなたはパンをいくつ持っていますか」—チリからのメッセージ—
3月4日(金) 13時半、日本キリスト教団富士見町教会(東京メトロ東西線・有楽町線・JR総武線飯田橋駅下車)。説教 張田直子師(救世軍士官)。主催 日本キリスト教協議会(NCC) 女性委員会。毎年3

今週・来週の予定 2月20日～3月5日

- 20(日) 顕現後第7主日 日 日 日
モニカ会幹事会 協働委
21(月) エルサレム教区協働委
員会 宣教協議準備委員会
ハラスメント防止委員
会
22(火) ハラスメント防止委員
会(臨時) 正義と平和協議会運
営委員会 教財務サー
ビス委員会 礼拝音
楽委員会 銀座朝
教会:大阪(～24)
27(日) 顕現後第8主日
3月 5(土) 月島礼拝堂聖別式
神学院卒業式

* 主教按手式・教区主教就任式
特別号、追って発刊予定(広報
委員会)

月第1金曜日に世界各国で同一
祈禱文により捧げる集い。当日
は、日本聖公会受付へ。照会先
 教区事務所。
▽夕の黙想会 2月25日(金)
19時、神田キリスト教会。黙想
指導 平岡仁子師(日本福音ル
テル保谷教会牧師)。会場 献
金。照会 Ⅲ03(3209) 36
63・高柳。
▽聖公会神学院卒業礼拝 3
月5日(土) 14時、同院諸聖徒
礼拝堂。説教 日本聖公会首座
主教・植松誠師。
▽一羊会 人権を守るための集
まり。 「大逆事件・クリスチャ
ン医師大石誠之助さんと新宮市の
痛み」 2月26日(土) 14時、東京
聖三一教会。照会 Ⅲ042(39
3) 2256・森田。

◇春の教区会

2月3日付公示のとおり(小紙2月13日号掲載)、3月21日(月・休)9時から、第115(定期)教区会が開会聖餐式・聖アンデレ主教座聖堂、議場・聖アンデレホールで開催され、大畑喜道主教が議長席に立たれる。各委員会・各教会グループまた、関係諸団体・諸施設等の10年度活動報告がされ、議案審議および11年度常置委員選挙などが行われる予定。

主教按手式の前後、国内外の主教様方・聖職・他宗教・他教派などのゲストを迎えて催されたレセプションで、また主教按手式・教区主教就任式後に行われた、新主教お披露目茶話会の席でも、挨拶に立たれた日本聖

公会首座主教(北海道教区主

教)植松誠師父は、「これから主教として歩み始める新主教を『選んだらそれまで』ではなく、承認した主教たちが、聖職たちが、信徒たちが、しっかりと支えて欲しい」と、真剣に話された。植田仁太郎前主教が『教区時報』に記された「主教になって行く人」を思い返ししながら、新主教就任後間もなく迎える春の教区会を憶えたい。

▽モニ力会幹事会(東京教区神学生後援会) 本日20日(日)15時、聖公会神学院で。

▽月島聖公会礼拝堂聖別式 昨年の5月から建築が進められてきた建物が完成し、3月5日(土)10時半、大畑喜道主教の司式・説教で聖別式を行う。

《今、この教会では…》

東京聖マルチン教会

2010年は、当教会の歩みと共にいらした信徒の方々が逝去された年でもありましたが、9月には、教会の皆々が待ちに待った中村淳先生の司祭按手式を迎えました。

そして1年の間に9名の方々が受洗され、さらに新しい命、5人の幼子を授かりまして、教会は大きな喜びを与えていただきました。

毎主日の聖餐式に御両親と一緒に幼子達が出席して、式文の応答に、聖歌に、主の平和にと可愛い声と笑顔で応えています。主日の礼拝に出席される方々が増えて、新しい息吹を感じています。

(鈴木道子)

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

【クローズアップ】76

TOPICK北朝鮮人道支援

昨年春からTOPICK北朝鮮人道支援のポスターが全国の教会に配布されました。ポスターには「こんな時だからこそ」の文字が入れてあります。

3年前に韓国で第1回聖公会平和大会が開催されました。全世界の聖公会の首座主教があつまり、分断された朝鮮半島の回復を願って開催されたのです。その後、北朝鮮の人々への支援として「練炭」「ミルク」など軍事に転用出来ない品物が考えられて大韓聖公会の大事な働きとして動き始めました。人道支援のために世界の聖公会の教会も少しずつですが、支援の輪に

加わるようになりました。

北朝鮮のアジアとの関係の悪さや猫の目のように変わる政策などからその影響を受けているのも「北朝鮮人道支援」そのものでした。日本でも韓国でも「北朝鮮人道支援」に対する否定的な反応も多く支援金があまり集まってこないという現状もあります。また韓国の政府が支援活動を制限するようなこともあり、練炭やミルクを運搬することが出来ないという事態もあり、直接担当しているソウル教区の神父たちの悩みも深いものがあります。

先月の中旬にソウルで日韓聖公会の協議会が開催されましたので、昨年末までに寄せられた「北朝鮮人道支援」38万円を会

議の冒頭に谷昌二主教(日本聖公会正義と平和委員長)から金根祥主教に手渡されました。大韓聖公会でも練炭・ミルクだけではなく北朝鮮の人々を支援するための方策を模索しており、教育支援や技術教育支援など何が出来ののかを考えています。

日本聖公会正義と平和委員会でも支援のためのポスターだけではなく北朝鮮の人々の現状を目に見える形にして教会の皆さんにお伝えしたいと考えています。そのためにリーフレットやCDを製作して配布したいと企画しており。北朝鮮人道支援のためお祈りいただくと同時にご支援をお願い致します。

日本聖公会正義と平和委員会
日韓担当 司祭 前田良彦